

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おれんじみんと			
○保護者評価実施期間	2025年9月1日		～	2025年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		～	2025年10月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた療育と質を高める取り組み	一人ひとりの特性や発達段階に合わせて課題を設定し、季節を感じられる多様な活動を実践している。午前・午後のミーティングでは子どもたちの様子や課題に加え、最新の支援情報や新しい活動を共有している。さらに、研修と振り返りを重ね、ら活動が一人ひとりの課題に即しているかを見直しています。共有・研修・検証を積み重ね、最適な支援を続けている。	最新の支援情報や実践事例を積極的に学び、研修やミーティングで共有する。行事や活動内容も、時代や子どもの興味の変化を踏まえて見直していく。個別支援計画と日々の活動をより結びつけ、振り返りを通して改善を重ねる。職員一人ひとりが専門性を高め続け、支援の質を高めていく。実施にとどまらず、常により良い支援を目指して進化し続ける。
2	保護者様による送迎を活かした、身近で相談しやすいタイムリーかつ迅速な保護者支援	送迎を保護者様をお願いしているため、毎回直接顔を合わせて話ができ、その日の様子や家庭での変化を共有できる。活動中の姿と家庭での様子をすり合わせ、職員間でも即時共有することで、常に最新の情報を把握できる。小さな違和感や困りごとにもその場で気づき、背景を整理しながら対応を検討し、迅速に支援へつなげている。	現在の連携を土台に、共有内容をより具体化し、家庭での関わり方まで見通した助言につなげていく。相談しやすい雰囲気づくりを意識し、気持ちの背景にも目を向けながら対話を重ねる。職員間でも視点を整理し、支援の一貫性を高めることで、ご家庭に寄り添った支援を継続して提供していく。
3	多彩な行事による保護者同士の交流と支え合い、職員・地域とつながる関係づくり	行事は事前に通信・メール・掲示で早めに案内し、趣旨やねらいも分かりやすく伝えて参加しやすい形を整えている。学習会、夏祭り、クリスマス準備会、人形劇、親子リトミック、地域ボランティアとの交流、親子カフェ、保護者学習会・交流会など多彩な機会を設け、一方通行にならないワークショップ型で実施し、自然に語り合い、つながる場づくりを行っている。	参加者の声や家庭のニーズを受け止めながら、新たな行事やテーマを発案していく。長年継続してきた取り組みを土台に、当事業所や大きな会場を活用して家庭・地域・職員が互いに役割を持って関われる場を広げる。継続開催を通して顔の見える関係を積み重ね、支え合いが自然に広がるつながりを深めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	経験を積み重ねる活動のねらいや価値を、保護者にわかりやすく伝える取り組み	子どもたちは、新しい行事や活動や日々の積み重ねが必要な取り組みに意欲的に取り組み、職員も工夫を重ねて支援している。積み重ねが必要な活動は発達にとって重要で、一見同じように見える活動でも、毎回教具やアプローチを変えて取り組んでいる。しかし、どの経験がどの力につながっているか、その価値やねらいが保護者様に伝わっていないことがある。	子どもたちが日々取り組む活動のねらいや価値を、保護者により分かりやすく伝えるため、写真や図、通信などを活用して成長や積み重ねの成果を見える形で示していく。また、教具やアプローチの工夫の意図も丁寧に伝え、活動参観や体験の機会を通して、保護者様が子どもの取り組みや成長を感じられる工夫を続けていく。
2	温かい対応を保ちながら、情報共有の時間を整える工夫	保護者との温かいやり取りを大切にしているため、伝える内容をより分かりやすく整理したり、伝え方を工夫する必要がある。活動内容や子どもの成長について、職員同士で改善を重ねているものの、保護者様が説明の順番を待つことがあり、子どもたちの活動や成長の内容を理解してもらいやすく伝える工夫を継続して行う必要がある。	送迎時に保護者との温かいやり取りを大切にしながら、伝える内容をより分かりやすく整理する工夫を続ける。子どもの活動や成長の様子を簡潔にまとめて伝える方法を職員間で話し合い、伝える順番や言い回しを工夫する。伝えきれない内容は、後日の電話や面談で補足するなど、保護者が理解しやすく安心できる伝え方を一層意識して取り組んでいく。
3			

事業所名	おれんじみんと	公表日	2026年1月31日
------	---------	-----	------------

利用児童数 29

回収数 29

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	27	1	0	1		子どもの動線を意識した空間設計を行い、活動の幅が広がる環境整備を進めていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28	0	0	1	適切かどうかはわからないが、多いと思います。 いつも複数の先生がいるので、安心。	先生の人数の充実を活かし、一人ひとりに丁寧に向き合える環境を育てていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	58	0	0	1	段差なく、危ないところがない。	段差のない安全な環境を維持し、危険箇所の点検を定期的に行い安全管理を徹底する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	29	0	0	0	清潔で明るくいい環境。(複数意見)	清潔で明るい環境を保ち、子どもが心地よく過ごせる空間づくりを継続する。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	0	0	0	親が気づいていない子供の問題点を教えていただけて助かる。	保護者と情報共有を深め、専門的視点から子どもの課題を丁寧に伝えていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	0	0	0		公表プログラムに沿って療育を具体化し、専門的な支援として提供している。 今後も改善を重ねていく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29	0	0	0		今後も、子どもの特性や成長過程を丁寧に分析し、実態に即した具体性ある支援計画へと高めていく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	29	0	0	0	ヒアリングをととても丁寧に相談した内容をよく気にかけてくれている。	丁寧なヒアリングを継続していき、さらに相談内容を支援計画に的確に反映させていく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	0	0	0	支援計画に基づいた的確なアドバイスと支援が行われており、子供の成長に繋がっている。	支援計画の評価と見直しを重ね、より具体的に効果的な支援へ高めていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	1	0	0	毎回違うことをしていただいています、子供が気に入った活動もあるので、たまには、同じ活動があってもいいのかなと思う。	子どもが好む活動は適度に取り入れ満足度を高めて、活動の振り返りと意見反映を行い、多様な内容へ発展させていく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	1	5	10	幼稚園や保育園に通所しているので、発達支援の活動を、園との交流を求めない。(複数意見)	発達支援の目的を優先しつつ、交流の必要性については今後も検討する。園との連携は実施していく。
保護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明がありましたか。	29	0	0	0		利用開始時の丁寧な説明を大切にし通信や冊子でも丁寧な情報発信を行う。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29	0	0	0		面談時に十分に話し合いながら説明している。今後も理解と共通認識を深める丁寧な説明に努めていく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	27	1	0	1	日常の関わり方から発達相談、就学相談等、勉強になる。	家庭で実践できる学びを大切にしよう だれも参加できる家族支援の機会を今後も充実させていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	28	1	0	0	毎回、しっかりと活動内容を伝えてくれる。	日々の様子を丁寧に伝え合い保護者と共に成長を喜び合える関係を大切にする。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	0	0	1	事業所からの声かけもあるし、こちらからの希望に応じて面談できる。	定期面談に加え、希望に応じた柔軟な面談と専門的な視点での相談体制を今後も維持する。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	0	0	0	子供本人の意見を尊重してもらいなが、寄り添った支援をしてきている。	子どもの意見を尊重し、子どもとご家族の思いに寄り添い共感的な支援を大切にしていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23	1	0	5	子供リトミックの参加や夏祭りに家族(兄弟含む)一緒に参加でき、普段の子供の様子がみれてとてもよかった。(複数意見)	家族で参加できる行事を継続し、交流と理解が深まる家族支援の機会を充実させる。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	0	0	1	専門的な視点から悩みに沿った対応してもらい、とても助かる。	専門的視点を活かし、悩みに寄り添った迅速かつ丁寧な対応を継続していく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	0	0	0		子どもや保護者の気持ちを尊重し、言葉になりにくい思いも汲み取る姿勢を大切に、丁寧に意思疎通に努めていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	27	0	0	2		通信やホームページ等を活用し活動の様子や連絡体制、評価結果を誰にも分かりやすく丁寧に伝えていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	0	0	2		個人情報の重要性を常に意識して管理を整え、適切な取扱いを徹底していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	1	0	2	契約時に説明のあった訓練はよくやっている。	訓練を計画的に実施していることは周知できているが、通信や連絡帳で実施状況をさらに分かりやすく説明していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	0	0	2		年間計画に基づく訓練を継続し、職員間の連携強化と対応力向上に努める。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	0	0	1		安全確保の取組を積極的に発信し、実践的な訓練を通して対応力向上を図る。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	0	0	5	丁寧に観ていただいており、けがをしている子供もみたことがない。	日常的な安全確認を徹底し、事故防止と丁寧な見守りを継続する。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	29	0	0	0		今後も、さまざまな経験を大切にし、意欲と笑顔が広がる支援内容の充実を図る。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	26	0	1	2	行けば楽しんでいるが、どこにでも行き渋りがあり、嫌がる。	一人ひとりの気持ちに配慮しながら、安心して通える環境づくりと通所リズムの安定を図る。
	29	事業所の支援に満足していますか。	29	0	0	0		日々の積み重ねを大切にし、安心の中で成長を実感できる支援をこれからも続ける。

事業所名		おれんじみんと					公表日	2026年1月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	増加する教具を定期的に整理分類し、活動内容や人数に応じて配置を調整しながら、安全性と活動のしやすさを両立した空間づくりを継続している。	利用状況や活動内容の変化を踏まえてレイアウトを見直し、より効果的にスペースを活用できるよう改善を続けていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	基準を満たす職員配置を確保し、子どもの特性やその日の状態を共有しながら、多角的な視点で役割分担を行い支援している。	子どもの状況変化に応じた体制確認を継続し、安定した支援を維持できるよう連携を強化していく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	視覚支援や表示物の工夫、動線の整理を行い、初めて利用する子どもにも分かりやすい構造化された環境を整備している。	掲示内容や動線の安全性を定期的に確認し、より理解しやすく安心できる環境づくりを継続する。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	清掃や整理整頓を日常的に徹底し、活動内容に応じて空間を調整することで、子どもが安心して過ごせる環境を維持している。	衛生管理の徹底を継続し、活動の多様化にも対応できる快適な環境づくりを進めていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	落ち着いて過ごせる個別スペースを確保し、子どもの気持ちや状態に応じて柔軟に活用できる体制を整えている。	利用状況に応じた空間の使い方を検討し、より安心感を高められる環境づくりを継続する。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	職員全体で目標設定と振り返りを行い、課題を共有しながらPDCAサイクルに基づく業務改善を実践している。	振り返りの内容を整理し、改善点を具体化しながら安定した改善サイクルを継続する。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者評価や意見を会議で共有し、実現可能な改善策を検討しながら事業所運営に反映している。	評価結果の分析を継続し、具体的な改善行動につなげる取組を積み重ねていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	職員が率直に意見を出せる雰囲気を整え、日常的な話し合いを通じて業務改善に取り組んでいる。	意見交換の機会を維持し、現場で実践できる改善を継続していく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	第三者評価は未実施であるが、外部助言やアンケート結果を参考にしながら支援の質向上に努めている。	外部の視点を取り入れる方法を検討し、継続的な質の向上につなげていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	内部研修を計画的に実施し、外部研修の内容も共有することで、専門性の向上と支援力強化を図っている。	研修内容を日々の支援に具体的に反映し、継続的な資質向上を目指していく。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	支援プログラムを作成・公表し、ねらいや活動内容を職員間で共有して日々の支援に活用している。	プログラム内容を定期的に見直し、現状に即した運用を継続していく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	丁寧なアセスメントを実施し、ニーズや子どもの特性や成長過程を丁寧に分析し、実態に即した具体性ある支援計画を作成している。	評価内容を再確認し、より具体性のある計画作成を継続する。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	職員同士で話し合う時間を増やし日々の様子や気づきを持ち寄り、お子様にとってより良い支援となるよう計画づくりを深めている。	協議体制を維持して、支援内容の具体化と共有を強化していく。		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	職員間で何でも話し合い、意見を出し合うことで計画が共有され、支援に活かされている。	子どもの小さな変化にも目を向け、計画をもとに職員で話し合いながら、安心できる支援を続けていく。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	評価ツールと日々の観察記録を組み合わせ、子どもの状況を多面的に把握している。	記録と評価を連動させながら、確認体制を維持する。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	本人・家族・移行・地域の視点を踏まえた支援内容を計画に反映し、具体的な目標設定を行っている。	将来を見据えた視点を保ちながら、支援内容の具体性を維持する。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	活動プログラムはチームで協議し、専門的な視点を取り入れながら内容を構成している。	チーム立案体制を維持し、活動の質向上を図る。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	活動が固定化しないよう内容や方法を見直し、子どもの興味や発達段階に応じて工夫している。	活動内容を振り返りながら、柔軟な展開を継続する。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別活動と集団活動を組み合わせ、発達段階や状況に応じた支援を行っている。	活動の組み合わせを確認し、現在の支援構成を維持する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	支援前に打合せを行い、役割分担や支援内容、子どもの最新情報を共有してから療育を開始している。	打合せ体制を維持し、連携の質を保ちながら継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	従来から、支援後に多角的な視点で振り返り、成長や課題を整理し、次の支援へ具体的に反映している。	振り返りの質を高め、改善点を具体化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援記録を徹底し、内容を検証しながら支援の改善につなげている。	記録の具体性を高め、継続的な活用を図る。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的なモニタリングを行い、必要に応じて支援計画の見直しを実施している。	見直し体制を維持し、変化に応じた柔軟な対応を続ける。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	関係機関会議に状況を理解した職員が参加し、内容を全体で共有している。	連携体制を維持し、情報共有を継続する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	地域の医療・教育・福祉機関と連携し、子どもの背景を踏まえた支援を行っている。	関係機関との連携を維持し、情報交換を継続する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	併行利用や移行支援を通じ、園や学校と情報共有し相互理解を図っている。	インクルージョンの視点を維持し、連携を継続する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	就学に向け関係機関と情報共有し、安心して移行できるよう支援している。	引き継ぎ内容を整理し、円滑な移行支援を継続する。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	8	0	児童発達支援センターの連絡会や研修に参加し、助言や最新情報を共有することで支援の質向上と連携強化を図っている。	連携機会を維持し、助言内容を日々の支援へ具体的に反映させる取組を継続する。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	0	園等との交流や地域活動の中で他児との関わりを持ち、社会性や適応力を育む機会を確保している。	交流機会を大切にし、子どもが安心して参加できる環境づくりを継続する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	日常的に保護者へ活動内容や様子を伝え、発達状況や課題を共有しながら共通理解を深めている。	情報共有の質を高め、家庭と連携した一貫性のある支援を継続する。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	家族支援プログラムや研修機会を設け、家庭での関わり方や支援方法を共有して実践力向上を図っている。	参加しやすい機会づくりを工夫し、継続的な家族支援体制を維持する。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	契約時に運営規程や支援内容、利用者負担等を説明し、質問にはその都度対応して理解を促している。	説明内容の共有を職員間で徹底し、誰が対応しても同水準の説明ができるようにする。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	計画作成時には子どもや保護者の意向を確認し、最善の利益を考慮した支援内容を検討している。	意向確認の機会を継続し、計画内容の具体性をさらに高めていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	計画を提示し支援内容を説明した上で同意を得ており、変更時も内容を共有している。	説明方法を工夫し、より理解しやすい伝達を継続する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	定期的に相談機会を設け、悩みや不安を共有しながら必要な助言や支援につなげている。	相談しやすい雰囲気を維持し、早期対応を心がける。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0	保護者会やきょうだい交流を実施し、保護者同士が情報交換できる場を設けている。	無理のない形で継続し、内容の充実を図る。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	相談や申入れへの対応体制を整備し、状況に応じて時間調整を行いながら対応している。	対応手順を再確認し、迅速な対応体制を維持する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	通信やホームページを活用し、活動内容や行事予定、連絡事項を定期的に発信している。	発信内容を整理し、更新頻度を維持しながら継続する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報管理規程に基づき保管し、誓約書や研修を通じて職員の意識向上を図っている。	管理体制の確認を継続し、情報漏えい防止を徹底する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	言葉だけでなく表情やジェスチャーも踏まえ、子どもや保護者との意思疎通を図っている。	伝達方法を工夫し、より分かりやすい対応を継続する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	地域ボランティアとの交流を通じ、地域とのつながりを深め開かれた運営を行っている。	地域との関係を維持し、交流機会を継続する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各種マニュアルを整備し、想定訓練を実施して事故防止体制を確立している。	マニュアル内容の確認と訓練を継続し、実効性を高める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BCPを全職員で共有し、想定別の避難・救出訓練を定期的に実施。訓練後は振り返りを行い課題を計画やマニュアルに反映している。	マニュアルの理解を深める研修と実践的な訓練を継続していき、内容を必要に応じて更新しながら実効性を高めていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	服薬や発作等の情報を事前に確認し、変更時は速やかに職員全体で共有している。	確認体制を維持し、情報更新の徹底を図る。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	医師の指示書に基づきアレルギー対応を行い、研修で手順を確認している。	情報更新時の共有を徹底し、安全対策を継続する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画に基づく研修や避難訓練を行い、子どもにも安全意識を伝えている。	安全教育を継続するとともに、訓練内容の見直しや振り返りを重ね、質の向上を図っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	安全計画の内容を通信等で保護者へ周知し、家庭との連携を図っている。	周知方法を工夫し、家庭との情報共有を継続する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット事例を共有し、再発防止策を話し合い実践につなげている。	事例検討を継続し、職員全体の危機意識を維持する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止研修を実施し、事例を通して対応力と共通認識を高めている。	研修内容の確認を継続し、予防意識を維持する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	身体拘束を行わない方針を共有し、問題発生時も療育的支援で対応している。	方針の周知と研修を継続し、人権尊重の姿勢を維持する。